

2024年
(令和6年)
6月8日[土]



沖縄大学

同窓会報

発行

沖縄大学同窓会広報委員会

〒902-8521 沖縄県那覇市字国場555

☎・FAX 098 (832) 6560

E-mail
dosokai@okinawa-u.ac.jp

第38号



発足した野球部OB会の皆さん



笑顔の卒業生たち



関東支部の皆さん



卒業式で吹奏楽部



写真におさまる入学生たち

それぞれ異なる人生の背景や、思想、宗教的価値観を持つ多様な人々が構成されています。ここでは互いの価値観の違いを認め、力を合わせて、多様に富む社会をつくり上げようと汗を流す人々があります。そして、この多様性こそ、未来への可能性を広げていく源泉です。

この「フィルターバブル」に在ると、目に入る偏った情報を「真実」だと思い込み、孤立に気づかず、視野も狭くなることで、価値観の違う他者との会話の機会をも失ってしまう恐れがあります。

最後に、サナギも蛇も、もがいてもがいて脱皮して成長していくように、皆さんもこれから、様々な困難に直面するかもしれませんが、時に涙を流しながら、それでもその度に立ち上がる人であってほしいとエールを送り、同窓会会長の挨拶とします。卒業！おめでとございます！

卒業生の皆様、そしてご家族の皆様、さらに大学で教授いただいた教職員の皆さま、卒業という本日の晴れの舞台をお迎えになり、喜びはいかばかりかと存じます。同じ沖縄大学を卒業した先輩の一人として、心よりお祝いを申し上げ、ご挨拶をいたします。

「フィルターバブル」という言葉があります。これは、私たちがスマホなどを、使い検索した情報などが、コンピュータのアルゴリズムによって、自分の興味のあることや、信じている情報のみがフィルターにかかれ手元に届き、それ以外の情報は遮断されたバブルの中にあることを表した言葉です。

出す方法は、自らが行動し、違う価値観に出会い、耳を傾けることです。そのためには勇氣と忍耐が求められますが、大丈夫です。皆さんには「勇氣と忍耐」を発揮できる知恵と若さがあります。どうかこれから社会で出会う、沢山の価値観に触れ、澁刺と成長する毎日をお過ごし下さい。

卒業生の皆様、そしてご家族の皆様、さらに大学で教授いただいた教職員の皆さま、卒業という本日の晴れの舞台をお迎えになり、喜びはいかばかりかと存じます。同じ沖縄大学を卒業した先輩の一人として、心よりお祝いを申し上げ、ご挨拶をいたします。

逆の現実を生み出し、偏った知識と嘘の情報によって、世界は孤立と分断が進み、戦争という愚かな事態をも招き、罪のない人々の命が奪われています。

なぜそうしたことが起きるのか。私たちには関係のない話なのか。決してそうではありません。私たちの社会もまた、そうした状況にあることを考えてほしいと思います。

沖縄大学同窓会
会長 棚原勝也



沖縄大学卒業式・修了式典同窓会長祝辞

2023年度 卒業式・修了式

沖縄大学は3月8日、本学体育館で2023年度沖縄大学卒業式、大学院修了式を挙行了しました。大学卒業生497名、大学院修了生1名、合計498名の新たな門出を祝いました。5年ぶりに保護者も参加での開催となりました。

コロナ禍で入学式の開催もなく大学生活をスタートさせた卒業生たちに向け、山代寛学長は告辞で、「これからも厳しく変化する時代に立ち向かい、地域社会

2024年度 沖縄大学入学式式典を挙行了

沖縄大学は4月2日、本学体育館で2024年度沖縄大学入学式式典を開催。589名の入学生が新たに大学生活をスタートさせました。2部構成とし、午前は経法商学部と健康栄養学部、午後には人文学部の式典を執り行いました。

午前の式では新入生を代表し、経法商学部入学生の荒琉風さんが「大学生活でも行事や部活動を行う際には、みんなで力を合わせることを意識し、協調性を大事にできるよう努力します。」と決意を述べました。午後の式では、福祉文化学部入学生の池間星藍さんが挨拶を行い



式に臨む卒業生たち

における問題を主体的に発見し解決策を編み出し、地域社会の未来に貢献していく人間になつてほしい」との言葉を贈りました。式典終了後、各学科に分かれて卒業証書が授与されました。

ました。

山代学長は、「これから求められるのは、他者に配慮し、私たちを取り巻く自然・社会環境と共に生きていこうとする想像力・実践力です。大学では、他者と交わり、自分の可能性を最大限に引き出してください。『地域共創・未来共創の大学へ』の理念のもと、卒業までの旅路をともに歩んでいきましよう」とエールを送りました。



入学式会場風景

沖縄大学新同窓 寄稿



2023年度沖縄大学卒業 琉球朝日放送 報道制作局 報道制作部 本村杏珠

今年、沖縄大学を卒業しました本村杏珠と申します。2020年に沖縄大学に入学し、有意義な学生生活を過ごせると思っていた矢先に新型コロナウイルスが発生。

繋がりや欲しいと、大学1回生の頃に参加した学生イベントで、沖縄戦と向き合う機会がありました。

そのイベントの中で、県外の参加者に対し沖縄の印象を聞くと、表面的な回答が多く、沖縄戦については誰も知りませんでした。県外の意識だけでなく、県内学生の意識調査を行うと、沖縄戦の経緯や内容について深く知る若者は多くいませんでした。



卒業式で学長特別賞を受賞した本村さんと、棚原会長

今年、沖縄大学を卒業しました本村杏珠と申します。2020年に沖縄大学に入学し、有意義な学生生活を過ごせると思っていた矢先に新型コロナウイルスが発生。

繋がりや欲しいと、大学1回生の頃に参加した学生イベントで、沖縄戦と向き合う機会がありました。

そのイベントの中で、県外の参加者に対し沖縄の印象を聞くと、表面的な回答が多く、沖縄戦については誰も知りませんでした。県外の意識だけでなく、県内学生の意識調査を行うと、沖縄戦の経緯や内容について深く知る若者は多くいませんでした。

沖縄大学大学院修了

2023年度大学院修了生 新田和馬

私の研究テーマは「琉球王国における泊村の歴史的作用について」です。

この研究では琉球王国の町方(都市部)の一地域である泊村の役割を調査していました。これまで泊村は同じ町方である首里や那覇、久米村よりも研究の焦点が当てられていない地域でした。修士論文では、泊村が王国の対外関係を内部から支える、いわば「裏方」としての役割を担っていたことを明らかにできました。

大学院の2年間で、自分の専攻である琉球史の知識を大いに深められたと感じています。

この経験を生かし、私は現在、沖縄県教育庁文化財課史料編集班に勤務しています。史料編集班は『沖縄県史』や『歴代宝案』の校訂本・訳注本などの編纂を行っており、自分の専門性を生かせる職場です。このような仕事に取り組みることができるのも、大学院での学びがあったからだと言えます。

沖縄大学大学院では学

生一人一人に対してきめ細やかな指導が実施されています。自分のやりたい研究により一層取り組める環境となつていきますので、充実した研究活動ができます。大学院での2年間は私の人生における貴重な財産の一つとなりました。



21年度同窓会奨学生に採用された新田さん(前列右から2人目)



現代沖縄研究科長賞を受賞(左)

野球部OB会発足

沖繩大学 法経学部 経済学科 (経営学コース) 1994年卒業 沖繩大学野球部OB会会長 仲村常司

沖繩大学野球部OB会の初代会長に就任しました1994年経済学科卒業の仲村常司です。沖繩大学野球部は、その前身である準硬式野球部に始まり、創部から66年が経ちますが、OB会の設立と後輩を支援する活動がなかなか継続できず今日に至っていました。

前監督の大城貴之さんの呼びかけにより、1年間の準備期間を経て、念願だったOB会を今年2月24日に設立しました。

沖繩大学野球部は59年、短大時に準硬式野球部としてスタートし、72年と翌年に全日本大学準硬式野球選手権大会で全国二連覇を達成。当時の中心選手であったエースの上田正則さんと4番打者の池端満也さんがプロ野球のロツテオリオンズにドラフト外で入団しています。

76年には準硬式野球から現在の硬式野球へ所属連盟を変更し、早速、九州地区を制覇しますが、遠征費などの経済的な理由から全国大会への道が絶たれたこと



野球部OB発足会で挨拶する仲村常司さん(中央)

は、私たちOBの逸話として語られています。創部から66年。沖繩でのリーグ戦優勝は春秋通算44回を数え、九州地区での優勝は7回。2021年には全日本大学野球選手権大会へ念願の初出場を果たしました。そして翌年の22年にはエースだった仲地礼重さんが中日ドラゴンズから1位指名で入団しビッグニュースとなりました。野球部OBの皆様から会費や寄付を頂きながら、透明性のある運営を行い、野球部をバックアップしていきたい組織にしていきたいと思っています。

同窓会創立60周年に寄せて

柵原勝也 実行委員長(同窓会会長)

「コロナ禍を越えて新たな時代へ」。1964年11月に誕生した沖繩大学同窓会は、その後の同窓の活躍も目覚ましく、政治、経済、教育、文化、スポーツなど多様な分野において、沖繩だけでなく、国内、国外で同窓が活躍しており、それが、なくてはならない存在として輝いています。

こうした同窓の活躍は、その人の人生観や哲学、生き様が体現されたものであることは言うまでもありませんが、それらを育む土壌となったのが、青春期における沖繩大学での、教授や職員、そして友人を通した学びと気づきがあったこともまた事実です。

「人間の最大の偉業とは何か。それは、同じ志をもった人間を残すこと」と語った哲学者がいます。そのため必要なのは、人を育て、思いを繋ぐ種だと私は思っています。

60年前、同窓の先輩たちが、困難な状況の中にあつても未来を見据え、後輩たちを育むための種を撒いてくれなければ、今の同

窓会の姿はなかったことを私たちは、心しなければなりません。11月の創立60周年記念式典では、今一度「種を撒

同窓会学生支援

宅地建物取引士

同窓会は3月13日、沖繩大学で宅地建物取引士資格試験合格者に表彰状と報奨金を贈呈しました。

合格者は福祉社文化学科4年次の屋嘉比えりなさん、経法商学科3年次の石原光喜さん、西平旺介さんの3人。式には石原さん、西平さんが出席しました。

式には柵原会長や稲嶺論副会長をはじめ、山代寛学長と大城貴之学生部長も参加。柵原会長は努力を称え、「皆さんが努力した結果が沖繩大学の評価を高めるものとなった」と激励。これに



宅建合格者への表彰

いた人の存在」に感謝し、コロナという困難を乗り越えた学生たちを育み、寄り添う。そうした同窓会であることを確認し、次の時代に人材を残すことを誓いたいと思います。

対し石原さんは「合格を手にするために平日は毎日2時間、休日は3時間、宅建の試験勉強を頑張った。西平さんは「去年2年次の時には試験にわずか1点届かず悔しい思いをした。そこから絶対に油断しないと決めた努力をした」と話しました。

山代学長は「様々なことに挑戦する中で、小さくまとまらずに大きく羽ばたいてほしい」と期待。大城学生部長も「今回、合格を勝ち取った2人は就職活動も頑張っている。就職支援課からも高い評価を得ている学生たち」と紹介しました。

奨学生証書授与式

同窓会は3月27日(水)、奨学生証書授与式を開催し奨学金を授与しました。これは同窓会が学生を支援する給付型で、授与されたのは赤嶺充さん(沖繩大学大学院。授与式には大学側から

山代寛学長、大城貴之学生部長、奨学生推薦者の名城健二教授が参列しました。

柵原会長は「努力の積み重ねの中に成功があり、赤嶺さんの『働きながら研究に取り組む姿』が、次に続く人々への道を開くことになるので頑張ってもらいたい」と激励しました。

山代学長は「地域共創・未来共創の大学へ」という「沖繩大学憲章」を通し、研究を地域へ生かしてほしい」と赤嶺さんを激励。名城健二先生からは、研究がこれまで素朴な疑問だったもの誰も研究対象にはしてこなかったテーマに取り組むことで、介護支援の新たなヒントになる可能性について期待が寄せられました。

これに対し赤嶺さんは「働きながら、これから研究論文を書き上げるのは大変だと思うが、皆さんが応援してくれると思うとうれしい」と感謝しました。



奨学金贈呈式で



定期総会風景

1. 役員会開催 (7回)
2. 評議員会開催 (4回)
3. 監査・定期総会開催
4. 同窓会創立60周年記念事業委員会開催
5. 広報委員会 (6回) 在学生への支援
6. 社会福祉士・精神保健福祉士合格者へ祝金贈呈
- ① 管理栄養士国家試験合格者へ祝金贈呈
- ② 宅地建物取引士資格試験合格者表彰
- ③ 同窓生家族 (一親等) の入学金一部補助
- ④ 卒業証書ホルダー費用補助
- ⑤ 沖大祭への運営補助
- ⑥ 沖大祭への運営補助
- ⑦ 沖縄大学支援同志会 学生支援

2023年度
同窓会事業活動報告

2024年度一般会計予算書 (案)
2024年4月1日～2025年3月31日

収入の部 (単位:円)			
項目	2024年度予算 A	2023年度予算 B	増△減 A-B
1. 会費	10,120,000	10,600,000	△ 480,000
2. 事業収入	1,000	1,000	0
3. 雑収入	100	100	0
当期収入合計	(10,121,100)	(10,601,100)	(△ 480,000)
前年度繰越金	9,590,418	7,526,535	2,063,883
収入合計	19,711,518	18,127,635	1,583,883

支出の部 (単位:円)			
項目	2024年度予算 A	2023年度予算 B	増△減 A-B
1. 事務費	2,736,000	2,736,000	0
2. 会議費	1,500,000	1,750,000	△ 250,000
3. 事業費	6,840,000	7,800,000	△ 960,000
A 卒業生対象事業	(3,200,000)	(3,300,000)	(△ 100,000)
B 在学生への支援事業	(3,440,000)	(4,300,000)	(△ 860,000)
C その他の事業	(200,000)	(200,000)	(0)
4. 事務委託費	740,000	740,000	0
5. 記念事業積立	1,000,000	500,000	500,000
6. 雑費	100,000	100,000	0
7. 予備費	6,795,518	4,501,635	2,293,883
支出合計	19,711,518	18,127,635	1,583,883

2023年度一般会計決算書
2023年4月1日～2024年3月31日

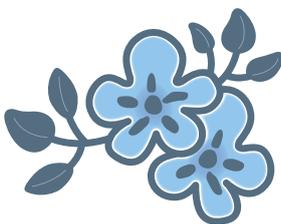
収入の部 (単位:円)			
項目	予算額 A	決算額 B	増△減 B-A
1. 会費	10,600,000	11,300,000	700,000
2. 事業収入	1,000	0	△ 1,000
3. 雑収入	100	53	△ 47
当期収入合計	(10,601,100)	(11,300,053)	(698,953)
前年度繰越金	7,526,535	7,526,535	0
収入合計	18,127,635	18,826,588	698,953

支出の部 (単位:円)			
項目	予算額 A	決算額 B	増△減 B-A
1. 事務費	2,736,000	2,557,251	△ 178,749
2. 会議費	1,750,000	1,248,067	△ 501,933
3. 事業費	7,800,000	4,190,852	△ 3,609,148
A 卒業生対象事業	(3,300,000)	(1,524,300)	(△ 1,775,700)
B 在学生への支援事業	(4,300,000)	(2,499,000)	(△ 1,801,000)
C その他の事業	(200,000)	(0)	(△ 200,000)
4. 事務委託費	740,000	740,000	0
5. 記念事業積立	500,000	500,000	0
6. 雑費	100,000	0	△ 100,000
7. 予備費	4,501,635	0	△ 4,501,635
当期支出合計	18,127,635	9,236,170	△ 8,891,465
次年度繰越金	0	9,590,418	

2023年度特別会計決算書
沖縄大学同窓会創立60周年記念事業
2023年4月1日～2024年3月31日

収入の部 (単位:円)		
項目	決算額	備考
1. 前年度繰越金	2,000,000	2019年度開始
2. 特別積立金	500,000	一般会計より
3. 事業収入	158,000	チャリティゴルフ
3. 雑収入	17	利息
収入の合計	2,658,017	

支出の部 (単位:円)		
項目	決算額	備考
1. 次年度繰越金	2,658,017	
支出の合計	2,658,017	



● KOOTA(2021年卒)

関連記事は8面

1. 同窓会創立60周年記念式典・祝賀会開催
2. スポーツ大会の開催
3. 同窓会奨学金の交付
4. 「同窓会報」発行年2回 (6月・1月予定)
5. 各支部 (久米島・宮古・八重山・関東・関西) 活動支援
6. 北部支部支部結成を目指す
7. 部会への活動支援事業
8. 在学生への支援事業
- ① 同窓生家族 (一親等) への入学金一部補助
- ② 資格取得支援補助
- ③ 就職活動への補助
- ④ サークル県外派遣費用補助
- ⑤ 大学祭運営補助
- ⑥ 卒業証書ホルダー費用補助
- ⑦ その他支援活動補助

2024年度
事業計画案

関東支部長 仲宗根政則

関東支部は今年で設立22年目を迎えます。昨年度は6月支部総会&懇親会と12月忘年会を開催しました。昨年度は嬉しいことに同窓会本部のご支援もあり、新会員の参加が多く、その中でも最年少で当年卒業生の参加もありました。

2024年度活動計画 重点方針

1. 役員体制を増強し、支部運営並びに支部行事の企画内容の充実
2. 支部行事の開催を通じて、参加メンバーの懇親を深めると共に新規参加メンバーの拡大
3. 同窓会本部と連携して、卒業生や関東在住の大学OB・OGへ関東支部の認知度向上
4. 支部役員会（必要に応じて開催）

2024年度役員体制

(7月6日支部総会で新任役員を1名選任と役職の一部変更予定、以下は変更前)

- 支部長 仲宗根政則
- 事務局長 阿波根昌吾
- 監査 高山朝宜
- 顧問 新城将孝

関西支部長 清村斉

関西支部は昨年3月11日に設立し、早いもので1年が過ぎました！

昨年末の忘年会では、今年11月の「同窓会創立60周年記念式典」にも多くのメンバーが参加したいと意気込みを語っていました。

今年度は本部と連携して23年度卒で関西在住の同窓にも案内をし、新規メンバーの拡大を考えています。

事務局長 橋口風伍

本年は関西支部1周年と、同窓会60周年を記念し活動を展開します。活動の対象者を在学歴のある方に限らず、その家族等にも拡大していきます。西日本で生活する同窓生が、ふと沖繩と沖繩大学を思い出し、改めて沖繩とつながる機会をつくる懇親会の開催、後輩を応援するスタディツアー等を事業として計画しています。



関西支部の皆さん

久米島支部長 宇江城久人

新型コロナウイルスが明けた2023年、久米島支部は各行事を行なえました。

なかでも久々に開催された保護者、大学との交流会は大学側や島内の新たな繋がりができ、今後の支部運営につながる会となりました。

今年度は沖繩大学同窓会60周年を迎えるにあたり、新メンバーも加え更に盛り上げていきたいと思っています。

活動報告

- 5月 役員会、定期総会懇親会
- 8月 保護者懇談会、父母会との交流会
- 12月 役員会
- 1月 新年会、パークゴルフ大会

役員

- 支部長 宇江城 久人
- 副支部長 吉永 博之
- 副支部長 津波 瞬
- 会計 金元 圭汰
- 事務局 大城 学



久米島支部の総会・懇親会

宮古支部長 下地信広

2024年度の沖繩大学同窓会宮古支部の活動計画は同窓生のネットワークを活用し会員の拡充に努めながら下記の事業に取り組みます。

- 1 定期総会、親睦グラウンドゴルフ、ゴルフ大会
- 2 役員会（随時）
- 3 沖繩大学同窓会定期総会
- 4 父母会との交流会
- 5 冠奨学金の依頼
- 6 沖繩大学推薦枠依頼
- 7 同窓会忘年会、新年会
- 8 卒業式、入学式参加
- 9 その他沖繩大学関連行事に関する協力等これまでコロナの影響で実施できなかった交流事業を中心に実行する。



宮古支部の皆さん。左が下地支部長

八重山支部副支部長 石川修

2月26日に支部活動計画のグラウンドゴルフ大会を開催しました

榊原同窓会会長と八重山支部との懇親会がこれまでなかったため、急遽実施しました。創立60周年記念事業のことも同窓会の始まりの頃の話で盛り上がり、有意義な会合でした。

2024年度の活動について

グラウンドゴルフ大会をメインにした活動になるかと思っています。4月に鳩間支部長が八重山グラウンドゴルフ協会会長に就任しました。八重山支部のメンバーでチームを編成し地区大会に出場の予定です。



八重山支部の皆さん

女性部会長 飯田明美

酷暑の候、皆様にはお変わりなくお過ごしのこととお喜び申し上げます。

2024年度活動計画を三つ述べさせていただきます。一、諸先輩方並びに新会員の親睦をはかるべく全体的な顔合わせの機会を設けます。

二、同窓会創立60周年祝賀会へ向けての「かじやでいふう」琉舞練習を6月頃から行う予定です。

三、例年通り、12月末には新年に向けての「生け花を活ける活動」を行い、その「ひといけ」は学長室へ贈呈しています。

以上、おまかではあります。同窓会活動の一助となるように進めて参ります。



女性部会の皆さん

青年部会長 島袋格

青年部会は50歳以下の会員ネットワークの拡充や、部会員の増員を目的とし、その趣旨のもと活動を展開しています。各世代において同窓会員を獲得し、現役学生に同窓会の存在とその活動を知っていただくため活躍めざましい学生を招いて交流会を催してきました。全国大会へ出場した水球部員を労って4月に慰労会を開催。大学祭の実行委員メンバーや、九州大会で活躍した硬式野球部員を招いて11月に観月会を開催しました。現役学生の活躍を応援し、交流を深めることで、卒業後の母校への関わりや同窓会の趣旨に賛同いただくことを目的に、今後とも青年部会はさまざまな企画に取り組んでいきます。



青年部会と水球部の皆さん

支援同志会 挨拶



会長 新垣 淑典

沖縄大学支援同志会の設立から7年ほどが経ちました。今まで離島出身学生の家庭補助といった直接的な支援を行ったり、学校内の環境・施設整備の一環として、学生の皆さんが休憩時間等に利用してもらおうための木製ベンチの寄贈Ⅱ写真などを行なっていました。まだまだ支援としては小さなものばかりですが、これからも学生の皆さんのためになる支援を続けていきたいと考えています。同窓会の皆様も趣旨をご理解の上、同志会へのご協力をお願い申し上げます。



新報児童文学賞・短編児童小説部門 佳作受賞

同窓会副会長 上田 真弓



第51回琉球新報短編小説賞と児童文学賞に、同窓会副会長の上田真弓さんの作品がダブル入賞しました。上田さんは広島県出身、本学法経学部を卒業しています。

37作品の応募作から短編小説賞佳作に入賞した「硝子の舟」は、中学生の清々しい世界のなかに、沖縄戦、米軍基地、東北大地震という大きなテーマを浮かび上げらせ、圧巻の筆力との評価を受けました。



受賞する上田さん

児童文学賞は正賞なしで、「山羊と雪」が佳作に入賞。沖縄戦を題材にした本作品について「架空の人物とはいえ、その人の悲しみや苦しみを描くことが許されるのか考え続けた」と話しました。

学生時代から暮らした沖縄の歴史に目を向け、演劇活動を続けてきた上田さん。沖縄大学卒業後、琉球大学大学院で学び、演劇の手法を用いて他者を想像していく授業などで沖縄戦を学ぶ実践を続けています。受賞後「物語のなかの人の気持ちをたくさん想像しながら、これからも書いていきたい。物語が生まれるのが楽しみです」と述べました。今後の表現活動が期待されています。

八重山支部会員とグラウンドゴルフで交流

八重山支部（鳩間真英支部長）恒例のグラウンドゴルフ大会が2月26日、石垣スポーツパークで開催されました。

参加者は女性8人と男性5人。同窓会本部から棚原勝也会長、奥間邑明事務局長が参加しました。

肌寒いながらも日差しもない、「グラウンドゴルフ日和」のもと、10時から始まった大会では、1コース8ホールの、3コースを、大体5人一組のグループで3チームに分かれて開始。支部会員はグラウンドゴルフ歴

が長いのですが、初体験の棚原会長はルールなど教わりながら、の「初めてのグラウンドゴルフ」挑戦になりました。大会は終始和気藹藹とした雰囲気、最も成績を上げた最優秀賞には賞状で鳩間支部長。棚



棚原会長（右）と八重山支部会員の皆さん



グラウンドゴルフに興じる参加者たち

原会長もピギナーズラックでホールインワンを叩き出し、棚原会長は「男性部門で3位に入り、本部のメンツを辛うじて保てた」と苦笑いのコメントでした。

60周年記念座談会を開催

沖縄大学同窓会は発足から60年をむかえました。会はその記念事業の一環として60周年記念誌の編集を企画しています。前回の記念誌編集は50周年を記念したもので、以後10年の大学同窓会について記念誌にまとめていきます。

過去10年、もっとも大きな出来事を考えたとき、「やはり社会生活にも影響をあたえたコロナウイルスの流行ではないか」と意見をいただきました。その内容で令和6年4月、記念誌委員会の主催で企画座談会を開催しました。

2019年にはじめて確認されたコロナウイルスは、またたくまに世界で猛威をふるい、政治・経済・生活・医療・教育など様々な分野に影響をあたえました。現役学生の中には受験対策の時期からコ



座談会への参加者たち

ナ禍の影響を受け、さらに入学式、講義、サークル活動、大学祭、卒業式と、問題や困難に直面された方も多いと思います。現役大学生の学生生活にながら起こっていたのかを語り合い、その成果を記念誌企画として編集・掲載したいと考えています。座談会の内容は11月に発行予定の沖縄大学同窓会60周年記念誌をご覧ください。

同窓会顧問と懇親会

顧問と役員との「懇親会」を3月22日、那覇市内で開催しました。4年ぶりの懇親会は賑やかな笑い声に包まれ、大学時代のびっくりするようなエピソードなど思い出話に沢山の花が咲きました。

榎原会長からは、これまでの同窓の先輩方、顧問の皆様が同窓会のため、在校生のために幾多の汗をかき、舗装された道の上に現在の同窓会があることを感謝。20年のコロナ禍によって、長く中断していた同窓会活動を22年から本格化させ、関西支部の創立ほか、各地の支部の同窓会の盛り上がりや若い世代が大幅に増えたことを紹介。11月9日の同窓会創立60周年記念式典へ向けての参加と、成功への協力をお願いしました。



顧問との懇談

同窓会ゴルフコンペ

同窓会ゴルフ同好会のコンペが3月13日、読谷村のクイーンズトラップゴルフコースで開催されました。参加者は12人。

同コンペは同窓生のゴルフ愛好者が一堂に集まり、親睦を深めることが目的。初心者から上級者までのゴルフ歴は問わず、ダブルペリア式で行われるためベストグロスを出しても優勝に届かないこともあります。ナイスショットとゴルフマナーでコンペは成功裏に終えました。優勝者は屋嘉部孝さん、ブービー賞は仲村昌和さんでした。同コンペは参加者を募集しています。問い合わせは同窓会事務局へ。



ゴルフ同好会の皆さん

沖縄大学新採用事務職員紹介(同窓生)

金城 清花

国際コミュニケーション学科卒業生の金城清花です。卒業後は非常勤職員として沖縄大学に勤めていました。私の学生時代はコロナが立ちほだかり、思っていたような大学生活が送られませんでした。そのため、後輩たちには後悔してほしくないという思いが強く、私の目標は一人でも多くの学生が「沖縄大学へ来てよかった」と思える環境をつくっていくことです。学生



のサポートはもちろん、教職員との連携を大切にしていきたいです。よろしくお願いたします。

翁長 春香

職員として採用された翁長春香です。私は2024年3月に管理栄養学科を卒業いたしました。在学中は多くの教職員の皆様に支えていただき、とても充実した4年間を送ることができました。

私を大きく成長させてくれた本学で働けることに、喜びと誇りを感じています。これからは学生を支える立場として、今まで学んできたこと、経験してきたこと



を活かし大学・学生・地域に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願致します。

人物シリーズ 活躍する 同窓生 ②⑥

この人物シリーズは、同窓生の社会的活動を紹介するとともに、同窓生同士のネットワークを広げることと、在学生へのメッセージを通して沖縄大学との絆を深めたいとの趣旨で企画されました。

橋口 風伍さん

2022年3月
人文学部福祉文化学科社会福祉専攻卒



【現在の仕事について】

社会福祉法人大阪市西成区社会福祉協議会で、ソーシャルワーカーとして勤務しています。聞きなれない仕事かもしれませんが、地域に暮らす方が、地域で暮らし続けていくための支援を行う仕事です。

例えば子供食堂の居場所にしても、ただ増やせばいい訳ではありません。そもそもなぜ、どのような居場所が必要なのかを調査し、必要な支援を検討します。子供自身としては、安心して食事ができ、遊べて話ができるような居場所が必要でしょう。

支援者としては、子供にたくさんご飯を食べてほしいがノウハウがない。専門職としては子供だけでなく、高齢者や外国籍の方、企業等の活躍の場としても期待したい。そんなそれぞれの思惑をコーディネートし実現するのが私の仕事です。

大阪市西成区社会福祉協議会より、令和6年能登半島地震災害支援近畿プロジェクト派遣第30クルーとして5月20～24日の間、七尾市災害ボランティアセンター（石川県 七尾市社会福祉協議会）の運営支援をおこなっていました。

【在学中の活動】

沖縄大学には資格取得のために進学しましたが、在学中は学内イベントの運営やボランティア活動に多くの時間を割きました。オーブンキャンパスに、学科の



2020年第61回大学祭で実行委員長として

イベント運営、沖大祭、ユリの植え付けに放課後ごども教室など、どれも課題を見つけ、仲間を集め、試行錯誤し、形にして、また課題を見つける。

出身も専門も年齢も異なる学生や、教職員のみならずと企画運営する体験が、今の仕事への姿勢につながっていると思えます。特にオーブンキャンパスでお会いした方が、実際に入学したことを知った時はとても嬉しかったです。

【就職から現在に至るまで】

「福祉Ⅱ介護や相談職」というイメージが強いですが、私は「福祉は必要かどうか、今はない仕組みをつくるもの」と考えていま

た。しかし社会福祉士の資格を活かしながら自分の考えに合う就職先は沖縄県内に少ないと感じ、県外就職に至りました。たまたま大学に届いていた、今の法人のパンフレットを見て応募したところ内定をいただき、焦って県外へ旅立つ準備をしたことを覚えています。

就職後、一番驚いたことは沖縄出身ブランドの高さです。私自身は沖縄で生まれ育ちましたが、苗字からナイチャー扱いを受けていました。しかし大阪に出てみれば、沖縄出身というだけで羨望の眼差しを受け、私よりウチナーチラーの沖縄二世・三世の方々からは「沖縄一世」と呼ばれるのです。公益だからこそ信頼が第一の福祉の仕事において、「沖縄のあの子」と覚えてもらうことは大きな武器になりました。

【沖縄大学と在学生へ】

大学生活は自分自身のデザインで大きく変わります。学問、資格、社会経験、アルバイト、仲間づくりなど、何に時間と労力を割くのかは自由です。だからこそ、大学は通うだけではもったいないと考えます。沖縄大



職場での橋口さん

ROOTA (比嘉康太) 個展開催

24年6月15～29日。場所 HOTEL SHE OSA-KA I.F. 入場無料 午前8時～午後9時まで。那覇市出身。1998年生。国際コミュニケーション学科卒。幼少期から空手一筋だったが、大学時代の手術をきっかけに絵を始める。鳥のぬいぐるみをモチーフにした「DOUDOU series」は、「癒される」と好評。創作活動の他に定期的に県内の児童館を訪れ、子供達の絵を描く環境づくりに助力している。